

おおだいがはら
大台ヶ原

**再生
目標**

大台ヶ原に現存する森林生態系の保全を図るとともに、天然更新により後継樹が健全に生育していた昭和30年代前半までの状況をひとつの目安として、豊かな動植物からなる質の高い森林生態系を再生するとともに利用との両立を図ることを目指す。

DATA

エリア：吉野熊野国立公園
所在地：奈良県吉野郡上北山村
他
着手：H14

**大台ヶ原自然再生
推進委員会**

概要：台風による倒木、ニホンジカによる樹木の剥皮、利用者の増加による環境負荷など、複合的な要因により衰退が進行した森林生態系の再生を検討。



大蛇嶺（だいじゃぐら）

大台ヶ原は、標高1,300～1,700m程度のゆるやかな起伏が続く台地状の地形で、年間降水量が3,500mmに達する国内有数の多雨地帯です。植生は大きく2つに大別され、東大台では南限に近いトウヒ等の亜高山性針葉樹の多い森林が形成され、西大台ではブナ、ミズナラ等からなる冷温帯性広葉樹林が形成されています。また、大台ヶ原の西側に隣接し森林が連続する大峯山脈は、標高に応じて大台ヶ原と類似した森林植生が発達しています。

しかし、大台ヶ原では、昭和30年代の大型台風による倒木の大量発生・運び出しと林床の乾燥化を契機とするミヤコザサの増加、ドライブウェイの開通に伴う林内への人の立ち入りの増加およびニホンジカによる樹木の剥皮など、複合的な理由に起因すると思われる森林植生の劣化がみられ、群落構造の単純化が進行しています。このため、周辺地域の森林との連続性の回復、森林生態系の再生を図るなどの取り組みを進めています。



東大台（トウヒ林）
本地域では、近畿地方では珍しいトウヒやウラジロモミの針葉樹林やブナ林がみられる



樹木の剥皮



利便性向上による利用者の増加

関連ホームページ

大台ヶ原自然再生事業：http://kinki.env.go.jp/nature/odaigahara/saisei/saisei_index.html

目指すべき大台ヶ原の姿

1. 長期目標

目指すべき自然の姿

現在、大台ヶ原で失われている、天然更新が行われる健全な森林生態系の回復と生物多様性の保全。

人と自然との新たな関係

利用者等の自然再生に対する理解を深めるとともに、利用の「量」の適正化と「質」の向上を通じて、「ワイズユースの山」の実現。

2. 今後 20 年程度の取り組みの方向性

(1) 森林生態系の保全・再生

緊急に保全が必要な箇所の森林後退を抑制し、森林生態系を保全します。

(2) ニホンジカ個体群の保護管理

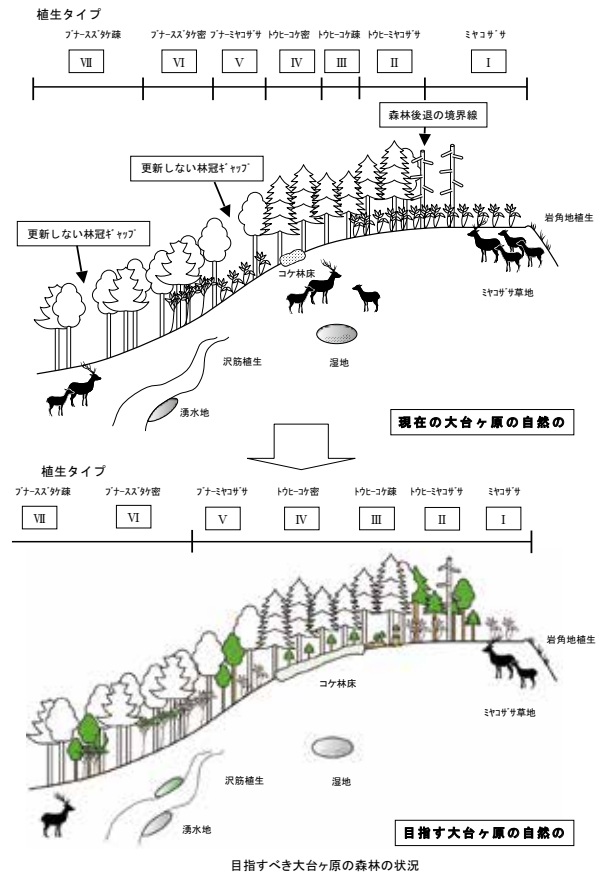
ニホンジカ個体群の保護管理を通じ、生育密度を適正な水準に誘導・維持することを目指します。

(3) 生物多様性の保全・再生

溪流環境や湿地環境等大台ヶ原を特徴づける多様な生態系の保全・再生を目指します。

(4) 持続可能な利用の推進

利用の量の適正化による自然環境への負荷の軽減、より質の高い自然体験学習の提供等、持続可能な利用形態をつくりあげることを目指します。



環境省 ④ 大台ヶ原

利用調整地区の設定

西大台地区では、自然環境への負荷の軽減を図り、原生的な植生景観を利用者に提供することを目的に、立入り人数の上限等を設ける利用調整を平成 19 年より開始しました。



利用調整地区の位置

防鹿柵の設置

個々の樹木での樹皮はぎを防止するため、植生保全の緊急性が高い地区から、樹脂製ネットの巻きつけを実施する単木保護対策を行っています。



剥皮防止用ネット

自然再生事業の効果

平成 16 年度にスタートした自然再生の取り組みの評価を平成 25 年度に実施しました。

その結果、植生保全対策として実施した防鹿柵内では、植物の確認種数の増加や下層植生が回復し始め、それに伴ってウグイスや地表性甲虫類など一部の動物群集にも保全効果が現れ始めています。

また森林更新の場である林冠ギャップ地に設置した小規模防

鹿柵や沢筋の明るい環境に設置した生物多様性保全を目的とした防鹿柵の内側では、草本層、低木層、湿地性植物の被度の著しい回復が見られ、ネコノメソウを食草とするヒダクチナガバチが 40 年ぶりに確認されています。

今後、スズタケの回復が進めば、生息数が減少傾向にあるコマドリやエゾムシクイをはじめ、大台ヶ原の生態系を構成する動物群集の回復が期待されます。